

14 週 神の贖いの計画

質問 20. 神は全人類を、罪と悲惨の状態のうちに滅びるままにされましたか。

答え I 神は、全くの御好意によって、永遠の昔から、ある人々を永遠の命に至るように選び、恵み契約を結び、贖い主を通して、彼らを罪と悲惨の状態から救い出し、救いの状態に至るようになさいました。

解説

選び

アダムとエバは、罪を犯して神から避け、隠れました。自分たちの罪によって神との関係が不和状態になり、神の御言葉通り、これから彼らは審判の下にいるようになりました。そして、全人類は、死と神の審判の下にいるようになり、罪と自責の状態に置かれるようになりました（ロマ 3:19）。さらに彼らは、罪の奴隷となった状態で（ヨハネ 8:34）、サタンの権威の下にいます（エペソ 2:1-3）。それでその悲惨さが厳しいです。

しかし神は、彼らの中からいくらかを選びました。それは完全に、神ご自身の御好意による選びでした。人間に信仰があることを先に予知し選んだのではなく、人間が良い行為をするだろうと先に予感なさって選んだのでもありません。ただ神のご自由の中で、主権的な恵みに起因して選んだことです（ロマ 6:23、エペソ 1:4-6、Ⅱテモテ 1:9）。従って救いの根拠は、神の恵みから探すべきです。

選びの目的

神が、ある者たちを選び、救いの恵みを施すのには、選ばれた民に、選びの効果と実を現そうとする、神の目的があります。彼らに聖なる生活があるようにと選んだのです（エペソ 1:4-5）。彼らの聖なる生活が、選びの条件ではなく、選びによる実なのです。神は、それによって栄光を現すことを良しとされました。それを、神の「御旨のよしとするところに従い」と語っているのです（エペソ 1:5）。神は、恵みの豊かさを現すために選ばれたのです（マタイ 11:26、ロマ 9:16、マラキ 1:2-3）。

それゆえ、選ばれた民だと告白しながら、罪の中に留まり世的な生活を生きるなら、その者は、選ばれた目的を知らない者であり、神の恵みを乱用する者として、実際には選ばれた民だとは言えません。

選ばれていない者たち

「神がある人々を選び、他の者たちは選ばれなかったなら、神は不公平ではないのか」という、質問が出てきます。神はいくらかを選び、他の者たちは選ばなかったのは、神の主権と恵みを見せてくださることです。他の者たちをみな選らばなければならない義務は、神にはありません。彼らを、ただ墮落の状態のままほって置かれただけです。勿論、彼らが続けて罪の中にいることを願い、肉のまま生きて行くことを願うので、彼らをほって置かれ審判なさるのです。従って結局、神は、彼らを審判なさることで、ご自身の公義を示されます。

恵み契約

神は、ご自身の選んだ人々を、契約という方法を通して救いに至させます。神

は選んだ者たちのため、キリストと共に恵み契約の関係に入られます。この時、キリストは、第二のアダムとしてすべての選ばれた者たちの代表となり、キリストを通して、すべての選ばれた者たちが契約の受恵者となります。神は、選んだ者たちに救いが起こるように、キリストを贖い主と決めました(ガラテヤ4:4-5)。旧約では、救いのために贖い主を待ち望むようにさせ、新約では、来られたキリストと、その方の有益を求めるようにさせ、救いに至るようになさいます。キリストは完全な従順を通して義を確保し、キリストを信じる者たちに義を転嫁させ、神と和解させるのです。

キリストを通して契約関係にいる人々に、神は、彼らの神となり、彼らは神の民となります。恵み契約において、神の民と神の民でない者とが区分されます。私たちはただ、神の用意してくださった救いの方法の卓越性について賛美し、感謝しなければなりません。

恵み契約の適用

神は、実際に選んだ者たちの救いのため、聖霊を通して霊的覚醒が起こるようになさいます。それによって罪を悟り、赦しを求めるようになるのです。そして聖霊によって、キリストの有益を悟るようになさいます。救いのためにキリストに出て行くようになさいます。このように、救いの有効な御業を通して選ばれた者は、実際に罪の赦しを経験し、キリストに対する確たる信仰を得るようになります。

このような恵み契約の適用は、ただ神が、特定な者たちを選んだことで与えられることです。選ばれた者たちに、救いのための根拠は何もないです。ですから私たちの救いは、ただ神の恵みによることなのです(エペソ2:8)。

救いの状態

キリストの恵み契約の施行によって、選ばれた罪人は、罪と罪による悲惨な状態から救い出され、救いの状態にいるようになります。救いの状態とは、罪によって、罪の定めの状態から抜け出されたことを意味します。そして罪の力と、暗みの権威から解放され、キリストの統治の下に入ったことを意味します。救いの状態とは、神に向かって「アバ・父よ」と呼ぶことができ、神と和解された状態として、神との交わりが回復された状態です。